

● 環境省からのお知らせ ●

福島再生・未来志向プロジェクト シンポジウムが開催されました

●シンポジウム 6月21日(金)

環境省と国立環境研究所の主催による「福島再生・未来志向プロジェクトシンポジウム」が開催され、自治体関係者や県内外の企業関係者ら約220名が参加しました。事業の事例などの基調報告、プロジェクトの概要、地域支援の事例紹介に続くパネルディスカッションでは、浜通り地域の現状と今後について活発な議論が行われました。環境省則久雅司福島再生・未来志向プロジェクトチーム長は「環境省は福島と一緒に未来を見る立場」と述べ、プロジェクトを通して積極的に課題解決に関わっていく姿勢を示し、パネリスト一同からは期待の声が寄せられました。



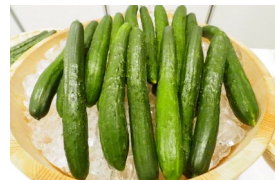
上/シンポジウム会場
中/ならばCANvas
下/マミーすいとん

●現地見学会(バスツアー) 6月22日(土)

シンポジウムの翌日には、現地見学会が行われました。参加者30人を乗せたバスは、今年4月に新たに開庁した「大熊町役場新庁舎」、住民の想いに寄り添い作られた「ならばCANvas」を見学。続いて、今年4月8年ぶりに再開された「道の駅ならば」で町の名物「マミーすいとん」を味わいました。午後からはワインを核としたまちづくりに取り組んでいる「とみおかわイン葡萄栽培クラブ小浜園場」を訪問、行程の最後は、「東京電力廃炉資料館」、「中間貯蔵施設工事情報センター」を見学し、担当者の話に真剣に耳を傾けていました。

「キュウリビズ」～今が旬の福島のきゅうりを食べて、暑い夏を乗り切ろう!～

夏が旬のきゅうりは、身体を冷やす作用があり涼を取るのに最適な野菜で、きゅうりを食べることで水分・ミネラル成分が摂れ、熱中症対策はもとより過度な冷房の使用を抑制する温暖化対策にも繋がります。この時期、福島県産のきゅうりのシェアは、東京都中央卸売市場でも4割以上を占めています。福島のおいしいきゅうりを食べて、暑い夏を乗り切りましょう!



REIFふくしま2019へ出展します

環境省は、第8回「ふくしま再生可能エネルギー産業フェア」(REIFふくしま2019)に出展します。「福島再生・未来志向プロジェクト」についても紹介する予定です。ご来場の際はぜひお立ち寄りください。
会期：10月30日(水)～31日(木)10:00～17:00 会場：ビッグパレットふくしま 〒963-0115 福島県郡山市南二丁目52番地

環境省の情報発信拠点

●中間貯蔵工事情報センター



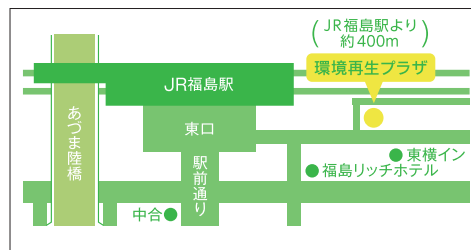
■所在地 福島県双葉郡大熊町 大字小入野字向畑 256
■開館時間 10:00～16:00
■休館日 日曜日・月曜日、年末年始 (月曜日が祝日の場合は翌平日)
■電話番号 0240-25-8377
中間貯蔵施設工事について紹介しています。8月は、企画展「双葉町のいまとこれから」を開催しています。リプルンふくしまとのスタンプラリーも開催中。

●特定廃棄物埋立情報館 リプルンふくしま



■所在地 福島県双葉郡富岡町 大字上郡山字太田 526-7
■開館時間 9:00～17:00
■休館日 月曜日、年末年始 (月曜日が祝日の場合は翌平日)
■電話番号 0240-23-7781
8月24日にオープン1周年を迎えます。夏休み期間中、記念イベントを開催していますので、ぜひお越しください。

●環境再生プラザ



■所在地 福島県福島市米町 1-311階
■開館時間 10:00～17:00
■休館日 月曜日、年末年始 (月曜日が祝日の場合は翌平日)
■電話番号 024-529-5668
福島の環境再生への取り組みなどの情報を紹介しています。常駐している専門家による解説や相談などを行っています。

ふくしま環境再生 Vol.4



伊達市の桃

「ふくしま環境再生」では、環境省が進める環境再生事業や地域活性化事業などの情報を定期的にお知らせします。

福島再生・未来志向プロジェクト

「福島」×「脱炭素・資源循環・自然共生」

福島の方々とともに未来をみたい

環境省環境再生・資源循環局参事官「福島再生・未来志向プロジェクト」則久雅司チーム長

除染や汚染廃棄物対策といった環境再生の取り組みに加えて、環境省の得意分野(脱炭素・資源循環・自然共生など)においても、福島に貢献していこうと、昨年8月に「福島再生・未来志向プロジェクト」を開始しました。

福島県、特に帰還困難区域のある浜通りの復興に向けて、地元のビジョンやニーズを踏まえ、私たちの持つ政策ツールやネットワークを総動員して、福島での取り組みを支援していきたいと考えています。将来、福島の子供たちが世界に出て出身地を聞かれて答えたときに、“原発事故の地”ではなく、“とても良いところから来たんだね”と、世界の人から言ってもらえるようにしたいです。

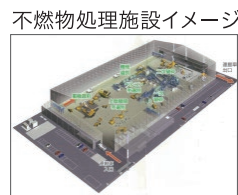
一般的に未来といえば、一世代30年後のイメージがありますが、環境省は、福島の方々とともに、その未来の姿を見ることとなります。そのため、一時的な話題づくりではなく、地元の役に立つことを地道に積み上げていきたい。もちろん、環境再生の取り組みをしっかりとやるのが大前提ですが、我々も福島の一員として“未来志向”で取り組んでいきます。



産業創生への支援

<なりわいの復興>

- 福島イノベーションコースト構想の下、資源循環型産業の創生を支援しています。現在、地元企業を含む共同事業として不燃物リサイクル施設の建設が進められています。
- 使用済み太陽光パネルのリサイクルや人工知能を使った自動選別システムなど、先端リサイクル技術の実証や事業化に取り組めます。



不燃物処理施設イメージ



使用済み太陽光パネルの先端リサイクル技術の例

脱炭素まちづくりへの支援

<暮らしの復興>

- 将来のCO₂を出さない社会の実現に向けた新たなまちづくりを支援します。
- 平成31年度は、暮らしの足を確保するバスシェアリング、ソーラーシェアリングやバイオマスによる地域エネルギーシステム、スマート農業や人工知能の活用などの事業の実現可能性調査(FS:フィージビリティスタディ)5件が行われています。

■バスのシェアリング

※朝夕は通勤の足、昼間は暮らしの足



EV/FCV

■営農再開に向けた環境保全としての創エネ



(ソーラーシェアリング)

復興作業に従事する方々の通勤の足

暮らしの足

環境省の得意分野との連携強化

環境再生・リスクコミュニケーション



脱炭素・資源循環・自然共生



復興・再生への貢献

ふくしまグリーン復興への支援

<自然資源活用による復興>

- 福島県には、尾瀬国立公園、磐梯朝日国立公園などの素晴らしい自然があります。今年4月に福島県と共同で策定した「ふくしまグリーン復興構想」に基づき、国立・国定公園の魅力向上などに取り組んでいます。
- 環境にやさしいツーリズムやCO₂排出の少ない交通技術の活用を検討しています。

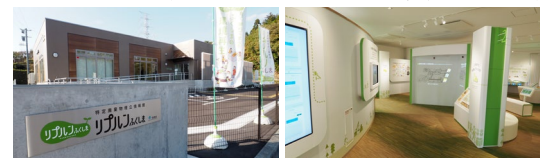


尾瀬沼ビジターセンター完成予想図

地域活性化への支援

<リスキミ・情報発信による復興>

- 特定廃棄物埋立情報館「リプルンふくしま」などを活用し、ホープツーリズムに貢献します。



- 楡葉町で首都圏等の学生のボランティアによる「米作り」を開催、富岡町で「えびす講市」を共催しました。

- 新宿御苑で行われるイベント開催時に出席するほか、福島マルシェの開催に協力しています。



ICT技術の活用による森林・農業の再生に向けて



株式会社ふたば
代表取締役 遠藤 秀文 さん

47歳。技術士(建設部門)・APECエンジニア・IPEA国際エンジニア・測量士・潜水士・1級土木施工管理技士。津波で家を流されるなど苦難にあいながらも富岡町、双葉郡の復興・再生に尽力する遠藤さん。そのエネルギーの源は「震災時、命を懸けて町民を守った当時町長だった父の姿」と言います。

ふるさとでできること

以前からふるさと富岡町を中心とした双葉郡で何か出来ることはないかを考えていました。そんな中、環境省が福島再生・未来志向プロジェクトとして支援している「まち・くらし創生」FS事業のことを聞き、事業実現可能性の検証に取り組みました。

そこで、まず思いついたのが森林、その次に農業です。森林や農業は富岡町だけではなく双葉郡全体の問題でもあり、放置された森林を資源として活用するという視点は、この地域にとって非常に重要であると考えました。農業に関しては富岡町では500ヘクタールの農地の使用用途が立っていません。帰還する人が少なく担い手不足の中、どう省力化できるのかという課題を、ロボットや機械を活用することで少しでも解決できればと考えました。



株式会社ふたば郡山支社

森林について

森林、農業の2つのテーマでFS事業をスタートして1年目となった昨年は、富岡町の農地の現状把握などの基礎調査を行い、農地の集約化の目途が立てば



マルチスペクトルカメラを搭載したドローン

後はどう効率化できるか、スマート農業の実現可能性があるかどうか、そんな検討をしました。また、当社が保有するドローンレーザーを使って森林の状態や在積量を把握、ドローンとIoT技術を活用して森林管理の効率化を検証したところ、大幅な省力化と効率化が図れることがわかりました。

農業について

2年目となる今年は農業を中心とした取り組みです。2015年からワインを核としたまちづくりをテーマに、私と町の有志で取り組んでいる「とみおかワイン葡萄栽培クラブ」の圃場で、IoT等を活用したスマート農業の可能性を検証しています。福島大学食農学類の先生や学生たちの参加も得て、今年は富岡産ワインの試験醸造を行う予定です。この事業が産業、観光、交流のキッカケになり、先導モデル農地として富岡以外の双葉郡の町や村に水平展開していければいいですね。



とみおかワイン葡萄栽培クラブ 小浜圃場